



## 四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



### コブシ

学名	: <i>Magnolia kobus</i>
生薬名	: 辛夷(しんい)
薬用部位	: 蕾
薬効	: 鎮痛、鎮静



桜よりも早く、春の訪れを真っ白で大きな花と強い香りで知らせるコブシ。昔から農村の生活に溶け込み、冬の眠りから覚めるようにコブシが咲き始めると、種をまいたり苗代が作り始められ、東北では「田打ち桜」、栃木では「芋植え花」、京都では「味噌仕込み花」などと呼ばれ、農作業の暦代わりにされてきました。また、「コブシの花が多い年は豊作、少なければ凶作」、「花が上を向いて咲く年は陽気な日が多く豊作、下を向いて咲く年は雨が多く、横を向いて咲く年は風の日が多くて凶作」と言い伝えられ、農作物の出来の指標にもされてきました。

コブシの和名の語源は、果実や蕾の形が拳(こぶし)に似ていることに由来します。花は芳香が豊か



残る頃、蕾が開く前に摘み取って乾燥されます。黄色い毛に覆われ、筆の穂のような形をしています。鎮静、鎮痛作用があり、鼻づまり・慢性鼻炎・蓄膿症に用いる「辛夷清肺湯」などに配合されるほか、頭痛や歯痛などにも用いられます。民間療法としては、湯に入れて香りを嗅いだり、薄荷などと共に服用すると鼻づまりを治します。

生薬として使う辛夷には色々あり、日本ではコブシ、タムシバの花蕾が用いられますが、中国ではモクレンの仲間が用いられ、いずれも日本薬局方で辛夷の基原植物とされています。コブシやタムシバは中国になく、日本でモクレンがない時代にその代用品として利用されてきました。